

上級日本語 Advanced Japanese 1-2

中村 一郎 ・ 坪根 由香里

1. コースの編成

上級日本語コースは、集中日本語3 (Intensive Japanese 3) または日本語6 (Japanese 6) ¹⁾ のコースを修了した学生が履修するコースである。

1995 年春学期までは、上級日本語1、2の2レベルが各々「講読理解」「作文および論文」「講義理解」の3つの独立したスキル別コースに分けられていたが、1995 年秋学期に日本語シリーズが改編され、中級レベルが1レベル増えて日本語7までとなったのにもない、「上級日本語」として1レベルになった。それと同時に、スキルも「読解」「書き方」「聴解」「話し方」「プロジェクト」の5コースに変更された。その後、2000年のカリキュラム改編時には、再び中級レベルが日本語6までとなり、上級日本語は1、2の2レベルとされた。それとともに、コースは上級日本語1が「読解」「書き方」「聴解」「話し方」の4コース²⁾、上級日本語2が「話し方・聴解」「読解・討論」「書き方・プレゼンテーション」と各コース二技能を統合した形に変更され、現在に至っている。上級日本語2は冬学期・春学期のみの開講である。なお、そのレベルの全てのコースを同時に履修する必要はなく、自分のペースで選択して履修することができる。

2. コマ数・単位数及び現在のコーススケジュール

時期	レベル	コース名	コマ数 (週)	単位数
～1995 年春学期	上級日本語 1	読解理解	3	2
		作文および論文	3	2
		講義理解	3	2
	上級日本語 2	読解理解	2	1
		作文および論文	2	1
		講義理解	2	1
1995 年秋学期～ 2000 年春学期	上級日本語	読解	2	2
		書き方	2	2
		聴解	2	2
		話し方	2	2
		プロジェクト	2	2

2000年秋学期一	上級日本語1	読解	3	3
		書き方	2	2
		聴解	2	2
		話し方	2	2
	上級日本語2	話し方・聴解	2	2
		読解・討論	2	2
		書き方・プレゼンテーション	2	2

上級日本語の1週間のスケジュール (2000年秋学期一現在)

◀ 上級日本語1 ▶

時間	月	火	水	木	金
I		R	A		A
II		R	W	R	W
III		S		S	
IV					

R: 読解
W: 書き方
A: 聴解
S: 話し方

◀ 上級日本語2 ▶

時間	月	火	水	木	金
I					
II					
III	A		WP		A
IV	RD		WP		RD

A: 話し方・聴解
RD: 読解・討論
WP: 書き方・プレゼンテーション

3. コースの内容

以下では、現在のコース編成に基づき、各コースの内容についてまとめる。

3-1. 上級日本語1：読解

3-1-1. コースの目標

読解コースでは、日本語で行われる大学の講義などで必要とされる「読む」力を身に付けるため、漢字・語彙、文法・表現、読解を学ぶ。また、読んだものについて内容の要点を自分の言葉でまとめたり、意見を日本語で表現したりする力も養う。

3-1-2. 使用教材

KOICHI NISHIGUCHI, TAMAKI KONO 『Kanji in Context 中上級者のための漢字と語彙』
The Japan Times

KOICHI NISHIGUCHI, TAMAKI KONO 『Kanji in Context 中上級者のための漢字と語彙
WORKBOOK』 vol.2, The Japan Times (学生用)

友松悦子・宮本淳・和栗雅子 『どんな時どう使う日本語表現文型 500』 アルク

友松悦子・宮本淳・和栗雅子 『どんな時どう使う日本語表現文型 500 【短文完成練習帳】』
アルク (学生用)

読解教材は雑誌・新聞記事、書籍等より生教材を適宜選ぶ。

<最近使用された教材例(雑誌・新聞記事を除く)>

大江健三郎 『「自分の木」の下で』 朝日新聞社

乙武洋匡 『五体不満足』 講談社文庫

吉本ばなな 『キッチン』 角川文庫

文藝春秋 『日本の論点』

3-1-3. 授業内容、クイズ・テスト、宿題

3コマの内訳は、当初は、漢字・語彙、文法・表現、読解が各1コマで上記テキストを使用していたが、読解の時間が1コマでは少なすぎるという問題が出たため、現在は学期によって多少の違いはあるものの、ほぼ読解と漢字・語彙で2コマ、文法・表現1コマになっている。

漢字・語彙は、上記テキストを使用するか、あるいは読解教材の中から抽出したものを学習し、約 220 字の漢字の習得を目指している。上級レベルで必要だと思われる慣用句、同音・同意語、四字熟語、ことわざ、故事成句なども取り入れる。学習したものは短文作成の宿題を課したり、クイズで確認したりし、定着を図っている。

文法・表現は上記テキストを使用し、中上級の表現を機能別に整理する。当初は 1 回に 3 課を目標にしていたが、上級レベルではあっても新出の文法が多く負担が大きいため、現在はほぼ 2 課/回程度の進捗で進めている。「短文完成練習帳」で短文を作成してくることを予習とし、授業では使い方、混同しやすい用法の確認等を行って、次回にクイズを実施する。

読解は、ある程度まとまった量を読むことを中心にしており、語彙リストとワークシートを事前に配付して、学生が予習として読んで授業に来ることになっている。読み物は、様々な分野から学生の興味・関心も参考にして選択する。クラスでは内容確認の後、内容についての話し合いをして、テーマを膨らませる。漢字の読み及び語彙クイズを実施する場合もある。

テストは、漢字、文法は既習のものについて中間試験、期末試験の 2 回実施、読解は新規のものについて期末試験において実施される。中間試験において読解試験が行われる場合もある。

3-1-4. 評価

中間試験、期末試験、漢字クイズ、文法クイズ、文法宿題、読解宿題より総合的に評価する。それぞれの割合は、試験 50~70%、クイズ 10~20%、宿題 20~30%である。

3-2. 上級日本語 1 : 書き方

3-2-1. コースの目標

書き方コースでは、日本語で行われる大学の講義などで必要とされる「書く」力を身に付ける。特に、論文を書くための諸技能の習得を目指す。また、様々な種類の文章を、その違いを理解して書けるようにする。

3-2-2. 使用教材

アカデミック・ジャパニーズ『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

佐藤政光・加納千恵子・田辺和子・西村よしみ『実践にほんごの作文』凡人社
二通信子・佐藤不二子『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワー
ク
浜田麻里・平尾得子・由井紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろし
お出版
自作教材

3-2-3. 授業内容、宿題

上級コースでは、中級に続くものとして、話し言葉と書き言葉の違い、文の構造、段落の作り方とつなげ方、文章構成、句読点の付け方等に注意しながら書く練習をする。また、本コースは日本語の論文の形式を学ぶことを目標の一つとしており、そのための諸技能を学んでいく。具体的には、話し言葉と書き言葉の違い、効果的な章立ての仕方、事実と意見、賛成意見・反対意見、定義・分類の文、比較・例示の文、調査概要の説明、図表の説明、要約、引用、参考文献の示し方、注の付け方等が含まれる。学生は論文作成の過程で資料収集の方法（図書館、インターネット、調査等）も学ぶ。論文はワープロでA4用紙10枚程度（ダブルスペース）とし、トピックは自由である。その他、手紙・はがき、履歴書、メモ、電子メール等の実用文やエッセイも扱う。

授業では、学生の既有知識を出させながら教師が説明を加え、その後タスクを課す（クラス内または宿題として）。提出されたものについては、教師の評価の他、学生同士でコメントを出し合う場合もある。論文は、完成までにアウトライン、序論、初稿を学期途中で提出し、教師との個人指導も経て、最終稿及び要旨を提出する。論文の進度によっては、第2稿を提出させる場合もあり、また学生自ら第2、第3稿を提出する場合もある。学期最後には論文の内容を口頭で発表させ、互いの内容をシェアするようにしている。

3-2-4. 評価

論文（アウトライン、序論、初稿、最終稿、要旨、発表等含む）、宿題（技能別課題、実用文等）により評価する。それぞれの割合は、論文40～50%、宿題50～60%である。

3-3. 上級日本語1：聴解

3-3-1. コースの目標

聴解コースでは、日本語で行われる大学の講義などで必要とされる「聴く」力を身に付ける。また、日本人大学生が一般教養として見聞きするようなものから情報を得る訓練をする。

3-3-2. 使用教材

ニュース、ドキュメンタリー、インタビュー番組、ドラマ、映画等の生教材で、時事性の強いものはできるだけ新しいものを使用する。

<最近使用された教材例>

ドキュメンタリー、インタビュー番組：

- NHK 総合「クローズアップ現代」
- NHK 総合「プロジェクトX」
- NHK 総合「今夜はあなたとミステリー」
- NHK 総合「公園通りで会いましょう」
- NHK 総合「トップランナー」
- NHK 教育「教育トゥデイ」
- テレビ朝日「徹子の部屋」
- 日本テレビ「知ってるつもり？」

ドラマ、映画：

- NHK 総合「疾風のように」
- NHK 総合「時を播く人」
- TBS「ちいさな橋を架ける・愛は海峡を越えるか」
- 日本テレビ「日本一短い『母』への手紙2」
- 日本テレビ「世紀末の詩」
- フジテレビ「世にも奇妙な物語」
- フジテレビ「ウェディング・プランナー」
- 「耳をすませば」
- 「ラヂオの時間」

3-3-3. 授業内容、クイズ・テスト、宿題

2コマのクラスのうち、1コマをドラマや映画、もう1コマをニュースやドキュメンタリーを見るクラスとする場合が多い。前週までに語彙リストとワークシートを用意し、学

生は授業の前に知らない単語の意味を調べ、ワークシートの事前の課題が課されていればそれを予習として行う。

授業では、内容の要点の理解、あるいは必要な情報の細かい聴き取りを行い、聞いた内容について説明し、意見を述べたり、周囲の人々と議論したりする。その中で新しい語彙・表現を積極的に使用することで語彙力を伸ばす。授業の進め方は、学生が一人ずつ担当者になり、その日に見るビデオについて事前に見て理解しておき、クラスを進めるという場合もある。ワークシートにはディクテーションが含まれる場合があり、学生はクラスでビデオから録音したオーディオテープを自宅で聴いてワークシートを完成し、後日提出する。毎回のクラスの始めに、前回見たビデオの内容についてのクイズ、あるいは当日見るビデオの単語クイズを行う場合もある。

クラスで見る教材の他に、学期末までに自宅で各自が視聴する課題が与えられることもある。学生は教師が選んだ複数の教材の中から見たいものを1本選び、語彙リストを参考に内容を理解する。学期終了時に口頭試験があり、内容について報告し、教師の質問に答える。

テストは大きく分けて、中間試験、期末試験を行う場合と、期末試験時に筆記試験と上記の口頭試験を行う場合がある。筆記試験は、クラスで見たものとは異なるものを使用する。

3-3-4. 評価

中間試験、期末試験、口頭試験、クイズ、ワークシートなどにより総合的に評価する。それぞれの割合は、試験（筆記試験、口頭試験含む）40～70%、クイズ 0～25%、宿題 25～40%である。

3-4. 上級日本語1：話し方

3-4-1. コースの目標

話し方コースでは、日本語で行われる大学の授業に参加するために必要な「話す」力を身に付ける。そのために、抽象的な話題について意見を述べ、議論できるようになること、大学の授業で必要な様々な形式で話せるようになること（説明、紹介、意見表明、提言、要約など）、相手・場面に応じた適切な話し方ができるようになることを目標とする。

3-4-2. 使用教材

東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会『日本語口頭発表と討論の技術-コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために-』東海大学出版会
アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター『待遇表現』The Japan Times
自作教材

3-4-3. 授業内容、テスト、宿題

基本的に2コマのクラスのうち、1コマを独話（スピーチ、発表）、1コマを対話（ロールプレイ、ディスカッション）のクラスとし、どの場合も学生は話す内容を予習として準備してくる。

スピーチのクラスでは、紹介、方法説明、情報提供、意見表明、提言、身近な話題での即席スピーチ等を行う。発表については、各自専門、あるいは関心のある分野について文献調査、インタビュー調査を行い、その結果をパワーポイント、OHP等を効果的に用いて口頭で発表する。どちらも教師が評価、フィードバックを行い、学生も互いに評価・コメントをし合う。

ロールプレイは、公的な場面・改まった場面を想定したフォーマルなものを中心に、学生同士のカジュアルな話し方も取り入れ、場面による切り替えができるように練習する。ディスカッションでは、討論の際の意見の述べ方、司会の仕方等を学び、司会者は話し合われた内容の要約も行う。学生自身が興味のあるテーマを探し、それを事前に他の学生に提示して、翌週にそのテーマについて話し合いを行うという場合もある。対話のクラスは、日本人を招いて行う場合もある。

コース期間中、個別指導の時間を設け、発音指導も行っている。

テストはスピーチ、ロールプレイ、インタビュー、ディスカッションの中からいくつかを選んで行っている。

3-4-4. 評価

テスト（スピーチ、ロールプレイ、インタビュー、ディスカッション等）、発表、授業内の活動（スピーチ、ロールプレイ、ディスカッション等）などにより総合的に評価する。

3-5. 上級日本語2：読解・討論

3-5-1. コースの目標

すでに上級レベルに達している学生の日本語の力をさらに伸ばす。具体的な目標は以下のとおりである。

- 1) 新聞・雑誌記事、小説、新書等が速く正確に理解できる。
- 2) 読んだものについて、建設的な討論ができる。
- 3) 必要な情報を探ることができる。
- 4) 漢字語彙力をつける。

3-5-2. 使用教材

KOICHI NISHIGUCHI, TAMAKI KONO 『Kanji in Context 中上級者のための漢字と語彙』
The Japan Times

読解教材は雑誌・新聞記事、小説、書籍等より適宜選ぶ。

<最近使用された教材例（雑誌・新聞記事を除く）>

文藝春秋 『日本の論点』

阿刀田高 『危険な童話』新潮文庫

佐竹信 『豊かさのかげに「会社国家」ニッポン』岩波ジュニア新書

山田詠美 『ぼくは勉強ができない』新潮文庫

手塚治虫 『ぼくのマンガ人生』岩波新書

3-5-3. 授業内容、クイズ・テスト、宿題

読解については、事前に読み物とワークシートを配付し、授業までに各自辞書を使って読んでくる。単語リストを教師が提供することはしない。授業では、読み物に即して理解確認をし、さらに文法・語彙・表現力を広げる。仕上げに、内容についてまとまった意見を述べたり、討論をしたりする。司会は当番を決めて学生が担当する。討論には、あらかじめ準備をした日本人学生に参加をしてもらうこともある。

学生各自の自己申告に基づき、まとまりのある長い読み物を選び、学期を通じて読むこともある。

日本語による情報収集の訓練も兼ね、学生グループごとにテーマを決め、インターネットで資料を収集し、報告・討論をする試みも行っている。

年度・学期により学生のレベルやニーズに差があることを考慮し、読み物から取った漢字語彙の読みや短文作成形式のクイズを実施する場合もある。漢字語彙の強化が特に必要な場合には、上記漢字教科書を使用することもある。

テストは、中間試験、期末試験の2回実施、読解は新規のものについても実施される（辞

書持ち込み)。

3-5-4. 評価

中間試験、期末試験、読解宿題、クイズ、討論の準備と参加により総合的に評価する。それぞれの割合は、試験 50%、読解宿題 20%、討論 20%、クイズ等 10%である。

3-6. 上級日本語 2 : 書き方・プレゼンテーション

3-6-1. コースの目標

上級レベルにふさわしい書き方・表現・発表能力を身につける。

3-6-2. 授業内容、宿題

学生のニーズを勘案し、下記のような活動の中から適宜選択し、授業を行っている。

- 1) 作文合評。学生は、家で書いてきた作文を毎週提出する。教師はそれを集め、人数分をコピーし、授業で合評する。その際、各自の文法・表現等の使い方や誤りについても議論する。書き言葉の意識を徹底させる。
- 2) 論文作成。A4 で約 10 枚の論文を作成し、学期の最後に提出する。論文の書き方は上級 1 書き方で既習のため、特に指導はしない。アウトライン・初稿・最終稿の提出及び教師によるフィードバックの日程はあらかじめ学生に示す。論文の口頭発表はパワーポイント等を使用して行なう。
- 3) 学生による調査と報告。グループごとにテーマを選び、調査・インタビュー等をし、公開でプレゼンテーションを行なう。テーマ選択、調査方法等、学生主導で行なう。各グループは毎回の議論の議事録を提出する。教師は必要に応じてアドバイスをする。

テーマ例：「留学生から ICU への提言」

発表当日には、大学の行政者や日本語教員等が招待され参加した³⁾。

3-6-3. 評価

論文 40%、毎回の作文 30%、発表等 30%である。

3-7. 上級日本語2：話し方・聴解

3-7-1. コースの目標

専門的な番組を見て理解できるようになり、そこから語彙や表現の幅を広げる。また、自分が決めたテーマについて、適当な形式でインタビューができること、見たり聞いたりしたものについて口頭で報告し、そこから建設的な討論ができることを目標とする。

3-7-2. 使用教材

a. 話し方

東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会『日本語口頭発表と討論の技術-コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために-』東海大学出版会
齊山弥生・沖田弓子『研究発表の方法-留学生のためのレポート作成・口頭発表の準備の手引き-』産能短期大学国際交流センター
自作教材

b. 聴解

<最近使用された教材例>

ニュース

NHK 総合「クローズアップ現代」

NHK 総合「プロジェクトX」

NHK 総合「その時歴史は動いた」

NHK 総合「視点・論点」

NHK 教育「教育トゥデイ」

NHK 総合「時を播く人」

NHK 総合：ドラマDモード「もう一度キス」

TBS「さらば天国にいちばん近い男」

フジテレビ「世にも奇妙な物語」

テレビ朝日「徹子の部屋」

黒澤明「夢」

他

3-7-3. 授業内容、クイズ・テスト、宿題

2コマのクラスのうち、1コマは主にビデオを見て理解するクラス、もう1コマは主に話すクラスとなっている場合と、コース前半をビデオを見て討論する時間、コース後半をプロジェクト発表の時間とする場合がある。

ビデオのクラスでは、上級1同様、前もって語彙リスト（とワークシート）を配付し、学生は授業の前にわからない単語の意味を調べることになっており、授業では、視聴前の活動として、内容に関連のある質問について話し合った後、ビデオを見、内容の要点の理解、あるいは必要な情報の細かい聴き取りを行う。ニュースの聴き取りでは、ニュースの構成を理解し、ニュース特有の表現を学ぶことも含まれる。上級1同様、ワークシートにはディクテーションが含まれる場合があり、学生はクラスでビデオから録音したオーディオテープを自宅で聴いてワークシートを完成し、後日提出する。また、クラスで見るものとは別のビデオ（1～3本）を各自が自宅で視聴する課題も与えられ、学期末に口頭試験が行われる。この口頭試験とは別に期末試験も行うが、期末試験は新しいビデオを見て時間内に問題に答えるという筆記試験を行う場合と、学期中に見たビデオについて2～3人の小グループで討論するという形で行う場合がある。中間試験は実施される場合とされない場合がある。ビデオの他、聴解練習の一つとして、教師があるテーマについてまとまった話をし、学生がその話を聞きながら、クラス内でのノートの取り方の練習をするといった授業も行っている。また、実際に日本人を呼んで講義をしてもらい、講義ノートを取ったり、質問をしたりするという試みも行われている。

話し方のクラスは、討論と（インタビュー）プロジェクトで構成される。討論の時間には、ビデオの時間に見た内容について新しい語彙・表現を用いながら口頭で説明し、討論を行う。討論に日本人が加わる場合もある。学期初めには討論・司会の仕方を確認しておく。プロジェクトについては、インタビューの練習、発表の仕方の説明等をクラスで行い、学期末の発表に向けて各自が進める。発表はパワーポイント、OHP等を効果的に用いて行う。

3-7-4. 評価

試験（中間・期末）、口頭試験、ワークシート、討論への参加、インタビュープロジェクトなどにより総合的に評価する。それぞれの割合は、試験（筆記試験、口頭試験含む）50～60%、ワークシート10～20%、討論への参加10～20%、インタビュープロジェクト30%である。

4. 上級日本語2の問題点

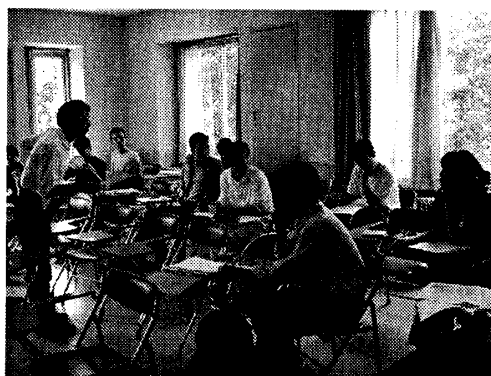
JLPを履修する学生（日本語特別教育を除く）の卒業に必要な語学要件は「上級日本語1」

までを修了することである。「上級日本語 2」は卒業要件としては認めない⁴⁾。そのため「上級日本語 2」の履修者はさほど多くない。学生の中のレベルの差が目立つ場合もしばしばある。そのため、クラスを構成する学生たちのレベルとニーズに応じ、授業内容が大幅に変化しているのが実情である。

注

- 1) 1995 年秋学期から 2000 年春学期までの期間は、「日本語 7 (Japanese 7)」。
- 2) 「プロジェクト」は、英語教育プログラムと JLP との協力で、日本人学生と留学生が同じ教室で英語と日本語を学びあうことを目的に実施された。しかし、両者の数が極端に不均衡であったことと、留学生から日本人と話す機会が多いので貴重な授業時間を日本人学生の英語学習の手助けに使いたくはないという意見が多く出されたことから、廃止された。
- 3) 3) に関しては本号掲載の小澤伊久美「『上級 2 書き方 プレゼンテーション』コース報告」を参照。
- 4) 卒業に必要な語学要件として JLP 履修者は、最大限 45 単位まで認められる（日本語力ゼロからスタートした場合）。上級 2 は卒業要件として認めていないが、以下の例外規定がある。

「JLP (日本語教育プログラム) 履修者のうち、語学教育科目が 24 単位以上を免除された学生については、JLP 主任の判断により「上級日本語 2」の 6 単位を選択科目とすることができる。」



中村 一郎



坪根 由香里

授業風景 (2003 年秋学期)